

Viva Kango

Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



RCHOKKAIDO

学校法人 日本赤十字学園
日本赤十字北海道看護大学
編集・発行／広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町 664 番地 1 TEL 0157(66)3311 FAX : 0157(61)3125
HP : <https://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>



日本赤十字北海道看護大学 と 北海道北見北斗高等学校 と 北見赤十字病院 との オホーツク地域における医療従事者育成を目的とした 包括的連携に関する協定調印式



RCH Viva Kango 北見赤十字病院、北見北斗 高等学校との三者協定

人 口減少に歯止めがきかないオホーツク地域において保健医療を担う人材の安定確保と資質の向上は喫緊の課題と言えます。本学はオホーツク圏内唯一の看護大学として25年の歴史があり、多くの看護師、保健師、助産師を育成してきました。北見北斗高等学校はスーパーサイエンスハイスクール(SHS)事業の指定を受け、優秀な学生が多く集まっている高校です。北見赤十字病院は90年の歴史を持つオホーツク三次医療圏の地方センター病院として、中核的な病院です。これらの大学、高校、病院の三者がオホーツク地域における医療従事者育成を目的として包括的連携協定を締結できたことはとても意義があることです。連携協定によって、今後は高校生が大学の授業を受けたり、大学教員や病院の医療従事者が高校に向いて授業を行ったり、三者が相互理解を図るためにネットワークを構築したり、大学生に対する基礎学力向上のための補習授業の実施したり等、具体的な話し合いをしていくこととなります。

連携協定により、本学に入学を希望する高校生の大学での学習に対する目的意識や将来に対する意識の向上が図れ、看護師以外の医療従事者を目指す高校生にとっても多職種連携の観点から大変有意義な取り組みになるのではないかと期待しております。



RCH Viva Kango

厳冬期災害演習 2025

2025年1月18日(土)から19日(日)にかけて、今年で15年目となる厳冬期災害演習2025が開催されました。気象台からの発表では19日午前4時40分にマイナス19℃と文字通りの厳寒の外気温の中、全体参加者167名、うち宿泊体験者144名でトイレ・キッチン(食事)・ベッド+暖房の4つの要素「TKBW」を網羅した演習が繰り広げられました。

本演習には教職員とともに本学災害DRS研究会メンバー13人が参

画し、演習の実施・運営に大きな力を発揮してくれました。

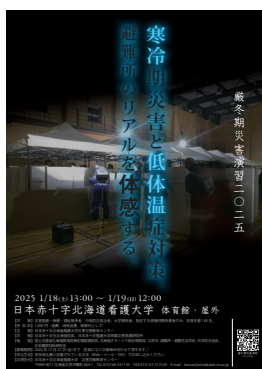
ポータブル蓄電池と電子レンジのセットによる災害時の調理はすべて学生が担当し、160名以上の大量炊き出しを安全かつフードロスを最小限に抑えて実現することができました。さらにイタリアンシエフが腕を振るうキッチンバスとのコラボレーションにより「温かく美味しく心の和む炊き出し」「並ばない炊き出し」「フードロスのない炊き出し」を実現しました。

今回初めて就寝環境として検証したものが「テント on the ベッド」です。災害時に緊用される段ボールベッドもしくはスチールベッドの上

に、キャンプ用のソロテントを載せた資材で、迅速にプライバシー空間と温かい空間を提供することを目標としました。実際に展開を行うと、以前使用していた段ボール製パーティションよりも迅速に立ち上がり、かつ屋根まで覆われていることでプライバシーを保持し、滞在者の熱によって就寝時のテント内温度は16℃まで到達し、最低限の暖房があるだけで冬期避難所の就寝環境の一つとして提案できるものとなりました。合わせて検証したスチールベッドは、収納容積が段ボールベッドの1/3、重量が1/2であり備蓄に優れており、何より展開時間は1/3(30秒)となりました。これらの成果を様々な災害対策に提案していきます。



今回から初の試みであるテント on the ベッド。



日赤第1ブロック訓練

RCH Viva Kango

令和6年度日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練

が令和6年10月4日(金)5日(土)にかけて本学を会場に行われました。東北6県(7救護班)ならびに道内10病院(11救護班)の計18救護班(医療スタッフ約110人)と赤十字本社ならびに支部スタッフ約100人が北海道に集まる大規模訓練で、北海道では7年に1度、本学を会場とした開催は初めてです。さらに本訓練には北海道北見保健所、網走保健所、北見市、網走市など隣市町の保健師をはじめとする保健活動に従事する専門職など約100名が参加しました。

避難者役として参加した本学の学生約110名からは「避難者としてどういう声掛けをされるとありがたいかが分かった」「赤十字を感じる貴重な機会になった」など、本訓練の意義を肌で感じておりました。



日本赤十字6看護大学 学生交流会を本学で開催

日 本赤十字6看護大学交流会では、赤十字学園が有する全国6つの看護大学から、参加を希望する数十名の学生が1校に集まり交流を行います。今年は9月11日〜13日の3日間で開催され、本学が担当校となり「赤十字避難所活動を演習にて実践し、防災・減災について学ぶ」「演習や観光を通して、全国の赤十字大学との交流を深める」をテーマに学生が主体となりプログラムを企画し実施しました。

開催初日は各大学の紹介やお土産交換を通して交流を行い、その後は本学の体育館にて避難所演習を実施



赤十字キャラクターのハートラちゃんと一緒に。

しました。初めて参加する学生ばかりで期待や不安がありました。そこは同じ志を持つ仲間であり、さらに同じ赤十字で看護を学ぶという境遇がすぐに仲間意識を高めました。

避難所演習では、日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター協力のもと、防災用品・備蓄品を実際に使用し避難所を想定した炊事を行い、就寝には体育館で実際に段ボールベッドを組み立て参加者全員で宿泊しました。宿泊後にはグループを組んで感想や意見を出し合い、知識や経験を共有しました。

教科書を通しての知識だけではなく、実際に避難所を想定した環境を体験することで、その過酷さや医療従事者に求められる役割について改めて考えるきっかけとなりました。

二日目は、本学から旭川のキャンプ場へ移動し、学生同士の交流は勿論、食事・自然・温泉やキャンプ地での花火などを通して「北海道らしさ」を体験することができました。

記事をもっと+

6看護大学学生交流会の様子を学生が撮影した写真と共に動画でもご紹介いたします。



北見からバスで移動し旭山動物園にも行きました。



コテージにも宿泊し、この日の夜はみんなでBBQ!

令和6年度 保護者会を開催

今 年度の保護者会は2024年10月20日(日)に開催しました。

午前中はコロナ禍以来継続して行っているリモートでの担任とのMM田相談を行い12組15名の保護者の方々が参加してくださいました。午後から従来の対面型保護者会として26組35名の保護者の方々が参加してくださいました。対面型保護者会では開会に先立ち本学ハンドベル部による演奏を聴いていただきました。その後、学長挨拶、学部長からの大学教育の説明、学年担任紹介と続き、担任との個別面談となりました。面談の待ち時間には学長の手作りクッキー、茶道部によるおもてなしなど例年にないプログラムを設けました。保護者の方々のアンケートのご意見からは大変満足していただいた様



安酸学長手作りのお菓子と Bakery Cafe Loafさんとコラボのおニオンクッキーでおもてなし。

です。ハンドベル演奏、クッキー、お茶会も好評を得ました。MM田面談方式も遠方にお住いの保護者の方々からは大変好評でした。今後とも保護者と教職員が力を合わせより良い教育を提供してまいります。



美しい音色を響かせてくれたハンドベルサークル。

地域の防犯として 街路灯を本学が設置

本 学がある地域には北見工業大学も数多く多くの学生が隣接しているアパートなどに居住しています。

平成28年2月には本学の事務局による防犯パトロール隊も結成され大学周辺の防犯に力を入れておりますが、昨今の事件や犯罪等を踏まえ本学では学生に防犯意識を高めてもら



えるよう外部講師として警察官をお招きし「護身術」の指導なども行っており参りました。

令和5年1月には、小泉北2線道路（大学付近交差点から光の苑前交差点）までの区間において歩道が設置されたことにより、歩行者も増えましたが街路灯が無く、暗く防犯の観点から街路灯の設置が必要と考え、令和6年12月に計6基の街路灯を本学が設置致しました。

本学学生のみならず、地域の防犯に一役立てればと思います。

RCH Viva Kango

ふるさと北見応援寄付金に 本学が北見市と締結

本学では、令和6年1月1日に「ふるさと北見応援寄付金北見市ふるさと納税」として北見市との間における税制制度を活用した相互協力を締結いたしました。

締結後には、本学のホームページや本学同窓会の公式Instagramなどで周知をおこなって参りました。この北見応援寄付金の受付は北見市のホームページからでも可能となり、皆さまより頂いた寄付金のうち「日本赤十字北海道看護大学への支援」として選んでいただいた方の寄付金が、北見市を通じ本学の振興を目的として支払われる仕組みとなっております。

これまで、大変多くの方より寄付を頂き、受付開始から令和6年11月末時点で6495人の方から計

7168万円もの寄付金が集められました。この寄付金のうち25パーセントが北見市から補助金として本学に支払われる予定です。

本学への寄付を目的とした北見応援寄付金は、受付を開始してから今年1月で1年が経過しました。本学もこれほど多くの方から寄付を頂けるとは思っており、大変驚いております。北見市との相互協力締結は今後も継続する予定であり、看護師を目指し本学に入学された学生がより良い環境で過ごし、より多くの専門知識を身につけていただけるよう、皆さまより頂いた寄付金は、本学の教育環境の充実化や設備等に有効に使用させていただきます。また、これほど多くの方から寄付を頂けるといことは、今後の本学のあり方を再認識するとともに、応援していただいている方、地域住民の方にも今まで以上に貢献できる大学として更なる発展を目指して参ります。

最後に本学を応援してくださいという皆さま、本学へ寄付をしてくださった皆さまへ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



本学 HP から受付ページにアクセス可能。

日本看護学教育学会 学術集会を開催

RCH Viva Kango

2025年8月29日(金)～30日(土)の2日間、日本看護学教育学会第35回学術集会を安酸史子学長が大会長となり、開催します。日本看護学教育学会 (Japan Academy of Nursing Education) は、看護教育の発展と質の向上を目的としており、学術集会の開催や研究助成、教育関連データベースの提供など、看護教育に特化した活動を展開する看護学系学会の中でも歴史ある学会で、会員数は4000名を上回ります。本学での開催は、2009年第19回の開催とあわせて、2回目となります。

第35回学術集会のメインテーマは「危機に立ち向かう看護学教育」です。看護学教育が立ち向かわなければならぬさまざまな課題について考える学術集会となる予定です。また、学会員だけではなく、今後看護師を目指す高校生を対象にしたゲーミング・サイエンスカフェといった企画や、公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

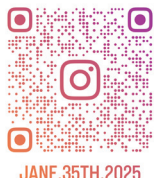


公式 Instagram では北見市の紹介も。

長で医師の岩室紳也氏による「GBTQ時代に求められる性教育(仮)」と題した市民公開講座を予定しており、一般市民の方も参加できます。

学会の運営には、学生がボランティアとして活躍します。受付や会場の誘導、発表のサポートなど多岐にわたる業務を担当し、実際の学術交流の場

に関わることで、看護教育の発展に貢献できる貴重な経験となります。ボランティア活動を通じて、専門職としての視野を広げる機会となります。学生の皆様、ご父兄の皆様も参加できる企画もございます。また、北見市は北海道の東部に位置し、美しい自然に囲まれた地域です。焼き肉の街としても有名で、学術集会を機会に本学にお越しくださいる皆様には地域の魅力も楽しんでいただければと思います。現在、開催に向け、鋭意準備を進めております。多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願いたします。



JANE.35TH.2025

The 35th Annual Meeting of Japan Academy of Nursing Education
一般社団法人
日本看護学教育学会
第35回学術集会

テーマ **危機に立ち向かう看護学教育**

2025年
8月29日(金), 30日(土)

会場 日本赤十字北海道看護大学・北見工業大学
〒090-0011 北海道北見市曙町 664-1

会長 安酸史子
(日本赤十字北海道看護大学 学長)

●学術集会事務局
日本赤十字北海道看護大学
〒090-0011 北海道北見市曙町 664-1

●運営事務局
株式会社プロコムインターナショナル
〒050-0005 東京都中央区新富町1-1111 6階 606号室
TEL:03-5520-8821 FAX:03-5520-8820
e-mail:jane35@procom-1.co.jp

ハラマント
災害
人口減少